

(3) 観光動向調査 アンケート調査結果について

- 1) 観光動向調査概要
- 2) 観光動向調査分析結果
 - ①観光動向の実態と傾向について
 - ②観光集客機能に対する意向について
 - ③サイクル機能に対する意向について

令和4年1月13日
芦屋港活性化推進室

1) 観光動向調査概要

観光動向調査概要

- 芦屋港周辺地域への観光動向の実態を把握するため、アンケート調査を実施しました。

<調査概要>

表 アンケート調査の実施概要

調査目的	<ul style="list-style-type: none">・芦屋港周辺地域への観光動向の実態を把握すること・芦屋港活性化における観光集客として望ましい機能（ニーズ）の把握及び検討を行うこと・芦屋港周辺エリアへのサイクリスト増加の状況を踏まえ、サイクル機能導入の可能性について検討すること
調査対象	<ul style="list-style-type: none">・芦屋町への来訪者・サイクリスト
調査方法	<ul style="list-style-type: none">・調査員の聞き取りによるアンケート調査※サイクリストについては、一部インターネットを活用したWEB調査を実施
調査日程	<ul style="list-style-type: none">・令和3年10月16日（土）から11月21日（日）のうち、17日間
調査実施箇所	<ul style="list-style-type: none">・芦屋町内 8箇所（芦屋海浜公園、マリンテラスあしや、芦屋釜の里、夏井ヶ浜はまゆう公園、モーヴィ芦屋、芦屋港、洞山、魚道公園）
調査回収数	<ul style="list-style-type: none">・観光動向及び観光集客機能のニーズ調査：1,441サンプル・観光動向及びサイクル機能のニーズ調査：253サンプル

2) 観光動向調査分析結果

①観光動向の実態と傾向について

● 芦屋港周辺地域への観光動向の実態と傾向について、次のとおり把握することができました。

※ 詳細は次頁以降に記載しますが、根拠となる数値等は速報値であり、変更になる場合があります。

表 観光動向の実態と傾向

観光動向の 実態と傾向	居住地	・来訪者は、「北九州市」からの来訪が43.0%と最も多く、次に「遠賀郡」24.0%となっている。「福岡市」は6.3%と、全体的に 近隣からの来訪が多い 傾向にある。
	来訪場所	・今まで訪れたことのある場所は、「芦屋海浜公園」が72.5%と最も多く、「夏井ヶ浜はまゆう公園」49.4%、「マリンテラスあしや」43.5%と続く。 ・芦屋海浜公園、マリンテラスあしや、洞山、芦屋港、モーヴィ芦屋などに訪れている人の約90%は、芦屋町内の他施設を訪れておらず、 芦屋町内の周遊が低い 傾向にある。
	来訪目的	・来訪目的は、「レジャー・遊び」が35.3%と最も高く、「散歩」23.4%、「観光」17.7%と続く。
	滞在時間	・滞在時間は、「1時間以上2時間未満」が32.1%と最も高く、「2時間以上3時間未満」22.1%と続く。
	消費額	・消費額は、「100円未満」が44.3%と最も多く、 芦屋町内での消費額が低い 傾向にある。
	情報収集	・情報収集は、「ホームページ」が17.1%と最も多く、「家族や友人の紹介」13.8%、「テレビ」13.4%、「SNS」11.4%と続く。「SNS」の中では、「Instagram」の利用が61.3%と最も多い。



【確認できた内容】

- **町内を周遊したくなるような施設**を考えていく必要があります。
- **遠方からの来訪者を呼び込むための観光機能**を有する施設としていく必要があります。
- 町内での**消費額を増やす**ための仕組みづくりを考えていく必要があります。
- 集客するためには、広く情報発信を行う必要があり、ホームページやテレビ、SNSなどの活用を検討していく必要があります。

2) 観光動向調査分析結果

①観光動向の実態と傾向について（居住地）

- 来訪者の居住地は「北九州市」が**43.0%**で最も多く、次いで「遠賀郡」が**24.0%**となっています。
- 「遠賀郡」の中には芦屋町居住者169人を含んでいます。
- 「福岡市」は6.3%、県外からが3.7%となっています。

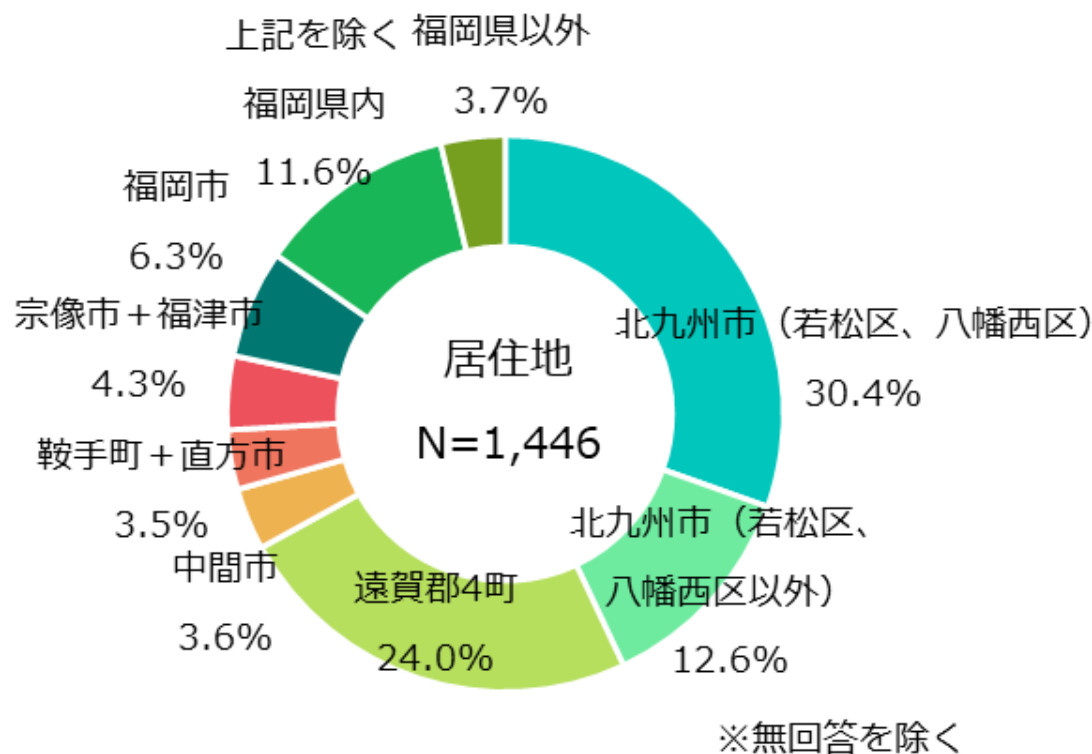


図 来訪者の居住地

表 来訪者の居住地

	人数	割合
北九州市 (若松区、八幡西区)	440人	30.4%
北九州市 (若松区、八幡西区以外)	182人	12.6%
遠賀郡4町	347人	24.0%
中間市	52人	3.6%
鞍手町+直方市	50人	3.5%
宗像市+福津市	62人	4.3%
福岡市	91人	6.3%
上記を除く福岡県内	168人	11.6%
福岡県以外	54人	3.7%
合計	1,446人	

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- 近隣からの来訪者が多く、遠方からの来訪者が少ない。遠方からの来訪者を集客できていないと考えられます。
- 近隣だけでなく遠方からの来訪が見込める魅力的な観光集客機能が求められます。

2) 観光動向調査分析結果

①観光動向の実態と傾向について（来訪場所）

- 訪れたことのある場所は「芦屋海浜公園」が72.5%で最も多く、次いで、「夏井ヶ浜はまゆう公園」が49.4%となっています。
- 芦屋海浜公園、芦屋港、マリテラス芦屋、洞山、モーヴィ芦屋など来訪者の約90%は、その施設のみ利用となっています。

表 芦屋町で今まで訪れたことのある場所

	人数	割合
芦屋海浜公園	1,045人	72.5%
芦屋港	428人	29.7%
マリテラスあしや	627人	43.5%
魚見公園	359人	24.9%
芦屋釜の里	523人	36.3%
なみかけ遊歩道	338人	23.5%
堂山・洞山	466人	32.3%
狩尾岬	257人	17.8%
夏井ヶ浜はまゆう公園	712人	49.4%
神社・仏閣	327人	22.7%
ボートレース芦屋	282人	19.6%
BOATKIDSPARK モーヴィ芦屋	212人	14.7%
回答者の合計	1,441人	

表 来訪場所を目的地としている割合

来訪場所を目的地としている割合（周遊が少ない）	
芦屋海浜公園	: 89.2%
芦屋港	: 97.8%
マリテラスあしや	: 89.9%
芦屋釜の里	: 78.3%
洞山	: 89.0%
夏井ヶ浜はまゆう公園	: 71.1%
BOATKIDSPARK モーヴィ芦屋	: 99.1%

※芦屋釜の里を訪れた人は、洞山や夏井ヶ浜はまゆう公園を訪問
 ※夏井ヶ浜はまゆう公園を訪れた人は、とと市場や洞山を訪問

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- 芦屋海浜公園、芦屋港、マリテラス芦屋、洞山、モーヴィ芦屋など各施設単独での利用で、周遊できていないことが課題となります。
- 町内を周遊したくなるような施設としていく必要があります。

2) 観光動向調査分析結果

①観光動向の実態と傾向について（来訪目的）

- 来訪目的は「レジャー・遊び」が35.3%で最も多く、次いで「散歩」が23.4%、「観光」が17.7%となっています。

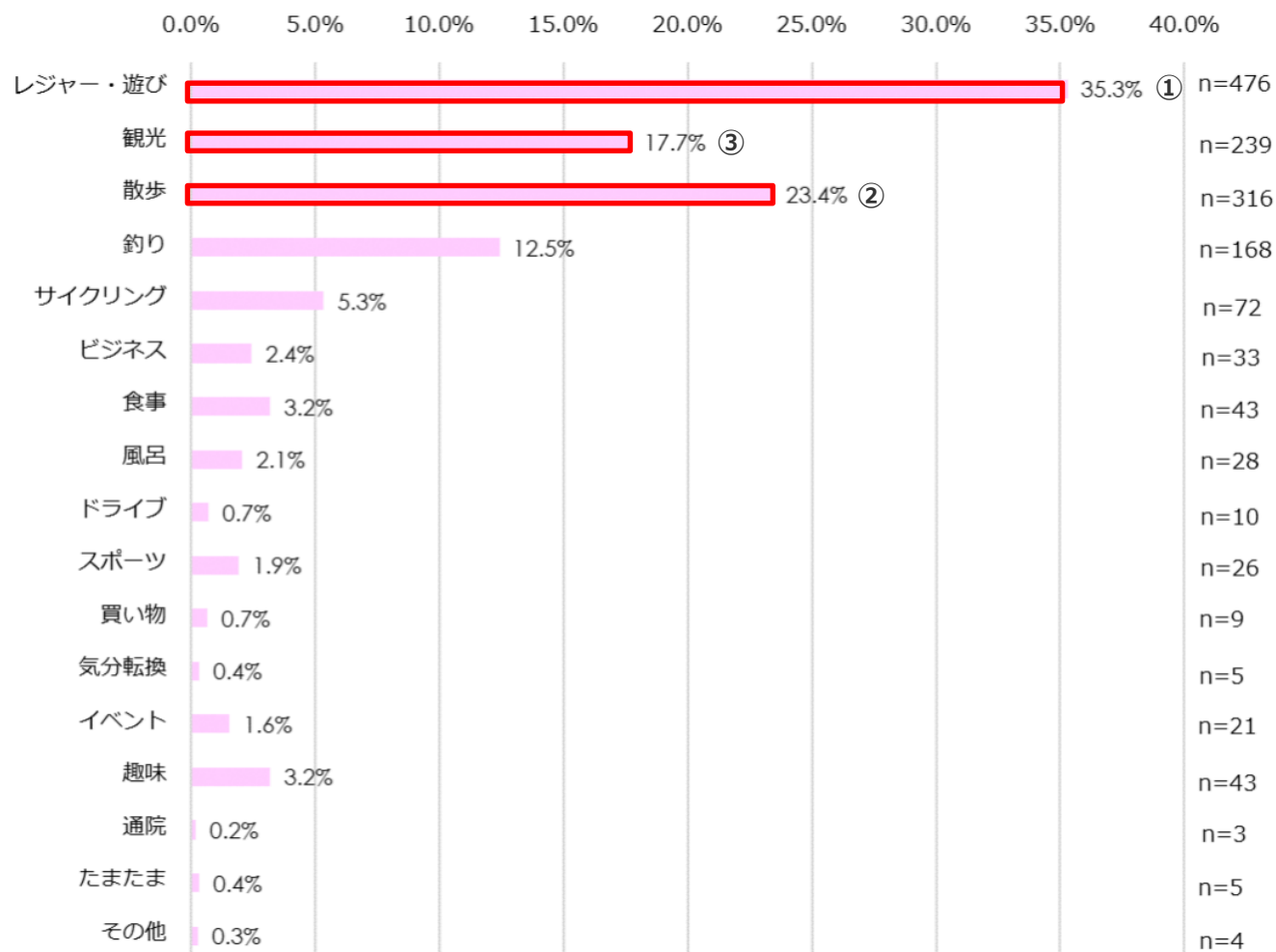


図 芦屋町への来訪目的 ※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- 来訪者が他施設にも行きたくなるような観光機能としていく必要があります。

2) 観光動向調査分析結果

①観光動向の実態と傾向について（滞在時間）

- 芦屋町での滞在時間は、「1時間以上2時間未満」が32.1%と最も高く、「2時間以上3時間未満」22.1%と続きます。
- 2時間以内の滞在が全体の半分以上を占めています。
- 各施設別の平均滞在時間は、宿泊施設であるマリテラスあしやを除いて、3時間程度となっています。

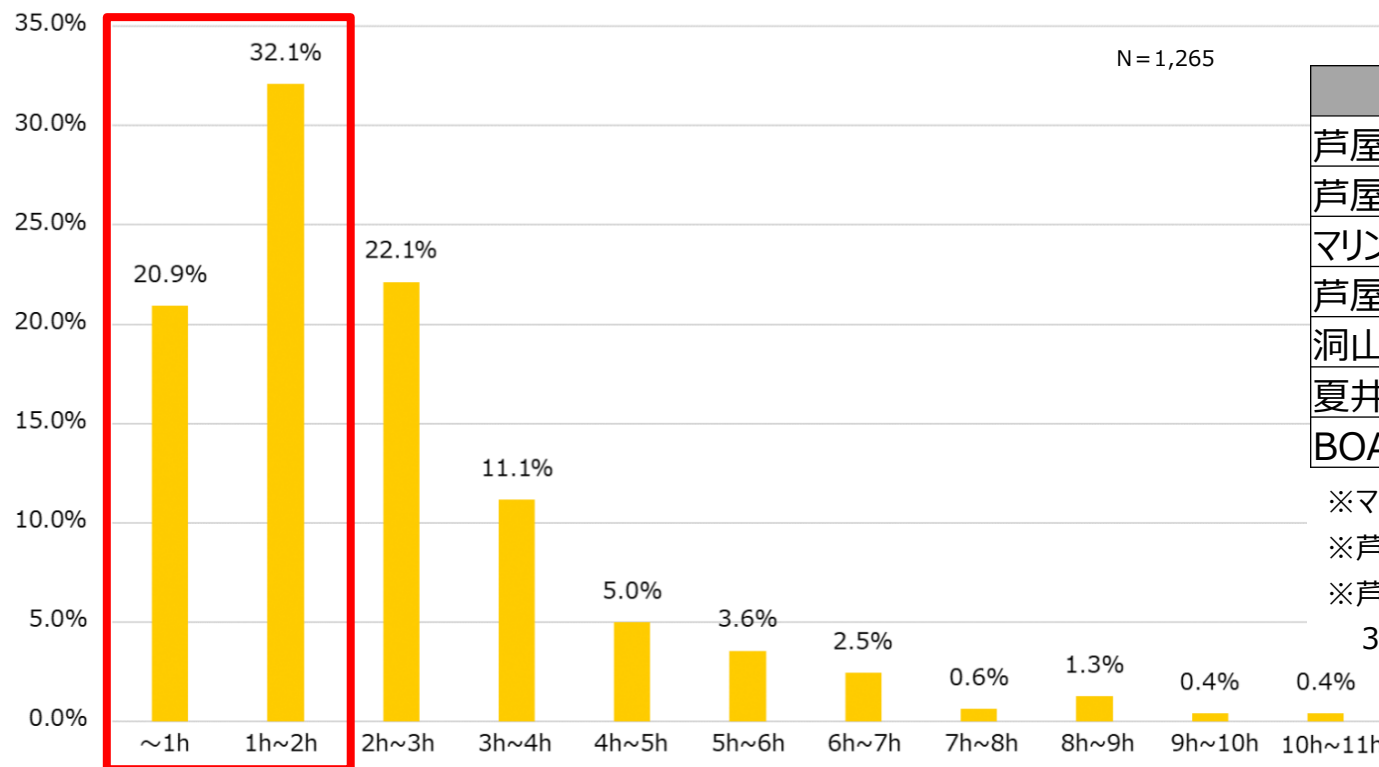


図 芦屋町での滞在時間

表 各施設利用者の町内での滞在時間の平均値

目的地	滞在時間平均
芦屋海浜公園	2.5h
芦屋港	4.0h
マリテラスあしや	20.4h
芦屋釜の里	3.5h
洞山	2.7h
夏井ヶ浜はまゆう公園	2.2h
BOATKIDPARKモーヴィ芦屋	2.5h

※マリテラスあしやは宿泊客を含むため長時間になっています。

※芦屋港は釣り客が主なため、3時間以上になっています。

※芦屋釜の里、夏井ヶ浜はまゆう公園は他施設の来訪があり、3時間以上になっています。

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- 来訪者の半分以上は各施設での滞在時間が2時間未満であり、通過型（町内以外の場所を経由）であることが考えられます。
- 芦屋町に長時間滞在して楽しんでいただけるような魅力的な観光機能が求められます。

2) 観光動向調査分析結果

①観光動向の実態と傾向について（消費額）

- 町内での消費額は、「100円未満」が44.3%で最も多くなっています。
- 町内居住者は消費が少なく、町外居住者が消費している割合が多くなっています。

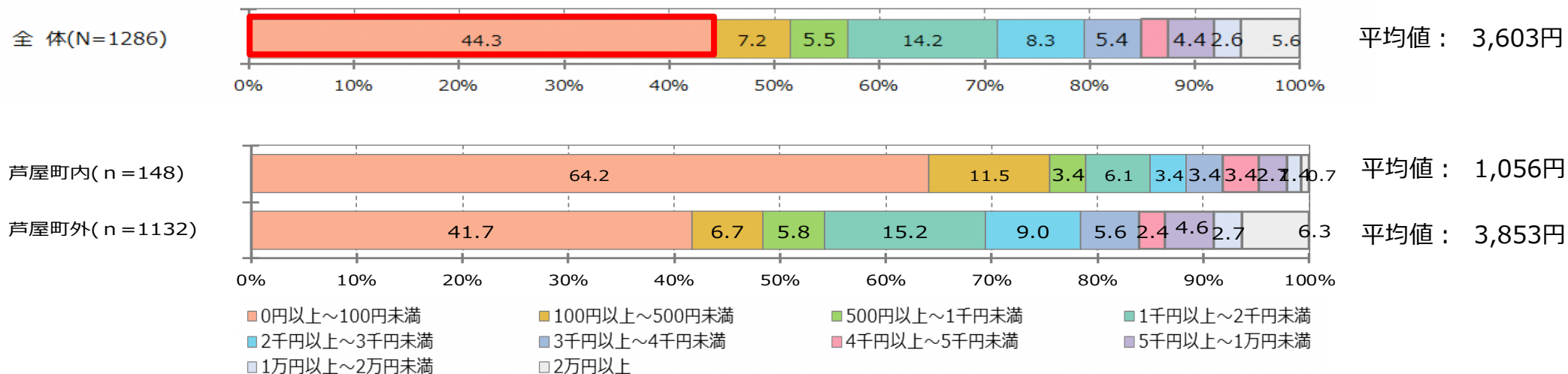


図 芦屋町内居住地・町外居住地別の消費額

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

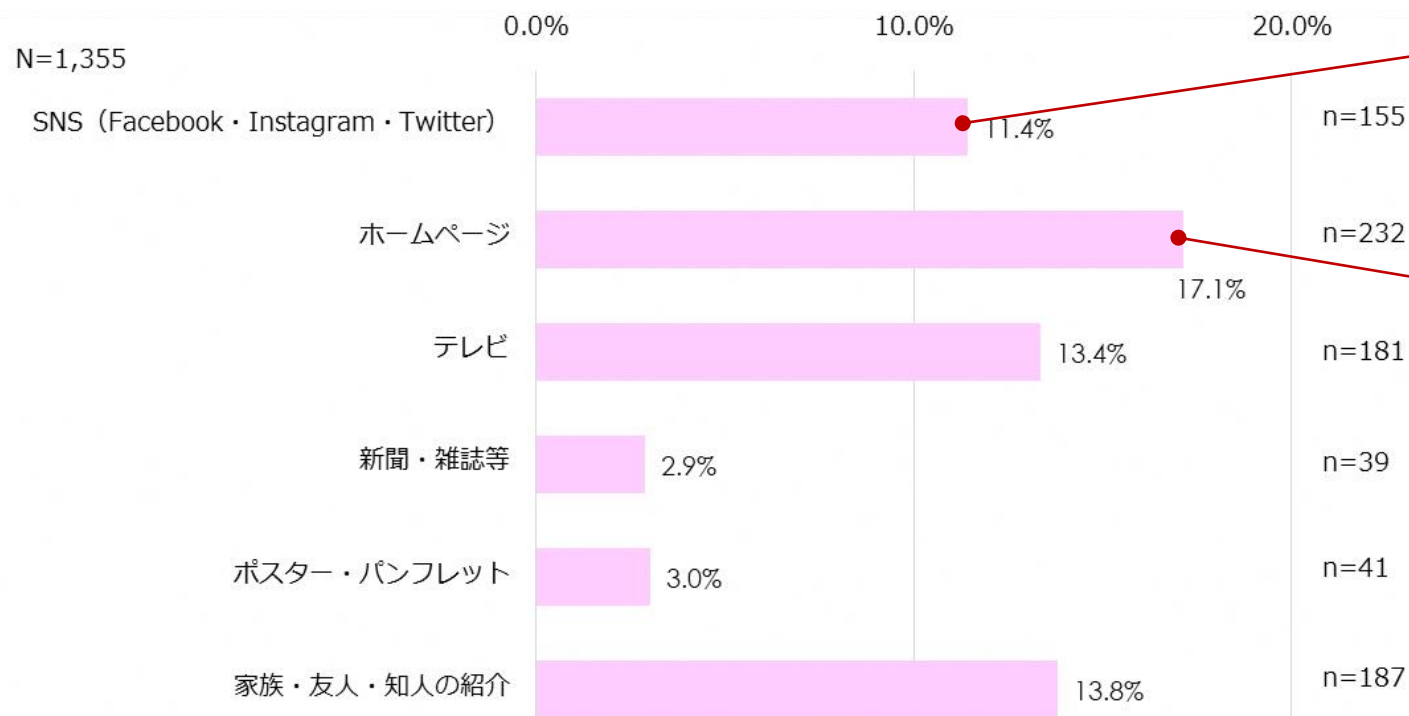
【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- 町内での消費額500円未満の割合が、来訪者の半分以上であることから、**町内での消費額が低いことが課題**となります。
- 町内消費額の増加に向けて、一般的に言われているように、町内での滞在時間を増やして、消費を促すことが求められます。

2) 観光動向調査分析結果

①観光動向の実態と傾向について（情報収集）

- 来訪する際の情報収集方法は、「ホームページ」が17.1%で最も多く、次いで、「家族・友人・知人の紹介」が13.8%、「テレビ」が13.4%、「SNS」が11.4%となっています。
- 情報提供媒体を個別にみると、SNSでは「Instagram」が多く、ホームページでは「観光スポット」のキーワード検索が行われています。



【SNSによる観光情報の取得内容】

・SNSの中でも「Instagram」が61.3%で最も多く、インスタ映えする写真等を見て来訪している

【ホームページによる観光情報取得方法】

・ホームページの中で、場所の検索として「芦屋町」、キーワード検索として「観光スポット」「イベント」等により情報の検索が行われている。

図 芦屋町の観光地等に関する情報収集方法

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- 情報収集は、ホームページのキーワード検索、知人等からの施設紹介、テレビ等メディアからの情報、Instagramのインスタ映え写真などから行っており、来訪者を増やすために、それぞれの媒体をどのように活用していくのかを検討していく必要があります。

2) 観光動向調査分析結果

②観光集客機能に対する意向について

- 芦屋港活性化エリアに整備する観光集客機能「全天候型施設」の活用方法は、基本方針にて「砂像」の屋内常設展示としている点を踏まえ、砂像の認知度やニーズ（来訪意向）について、次のとおり把握することができました。

※ 詳細は次頁以降に記載しますが、根拠となる数値等は速報値であり、変更になる場合があります。

認知度	●あしや砂像展の認知度について、遠賀郡や中間市、北九州市（若松区、八幡西区）などの近隣では80%を超える高い認知度があるものの、福岡市や福岡県外など遠方になるほど認知度が低い傾向にある。
来訪意向	●屋内砂像展示施設ができた場合、77.2%の人が「行ってみたい」と回答しており、高い来訪意向がある。 ●居住地別の来訪意向では、福岡市や福岡県外などの遠方からの来訪意向が高い傾向にある。



【確認できた内容】

- 芦屋町の独自性を活かしたコンテンツである「砂像」の認知度は高く、来訪意向も高いことが確認できました。
- 「砂像」の屋内常設展示は、遠方からの来訪が期待できるため、観光集客機能としてのポテンシャルが十分にあることが確認できました。
- 砂像の屋内常設展示施設に来訪意向のある人は、「芸術性の高い砂像（迫力、美しさ、SNS映え、非日常）が見たい」、「照明や音響などの演出が期待できる」、「天候に左右されずにゆっくり見ることができる」、「展示期間が長くなれば見に行くことができる」などの意見があることを聞き取りで確認することができました。
- 「もう一回行ってみたい（リピーター獲得）」に繋がる取り組みや、飽きさせない工夫を考えていく必要があります。

2) 観光動向調査分析結果

②観光集客機能に対する意向について（認知度）

- あしや砂像展の認知度は、「知っている」が79.3%と高くなっています。
- 特に遠賀郡や中間市、北九州市（若松区、八幡西区）など、**近隣の方が高く**、福岡市や県外など**遠方での認知度は低くなっています**。

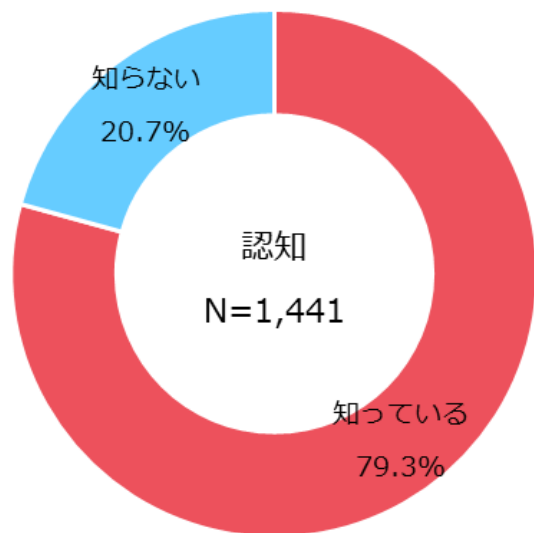
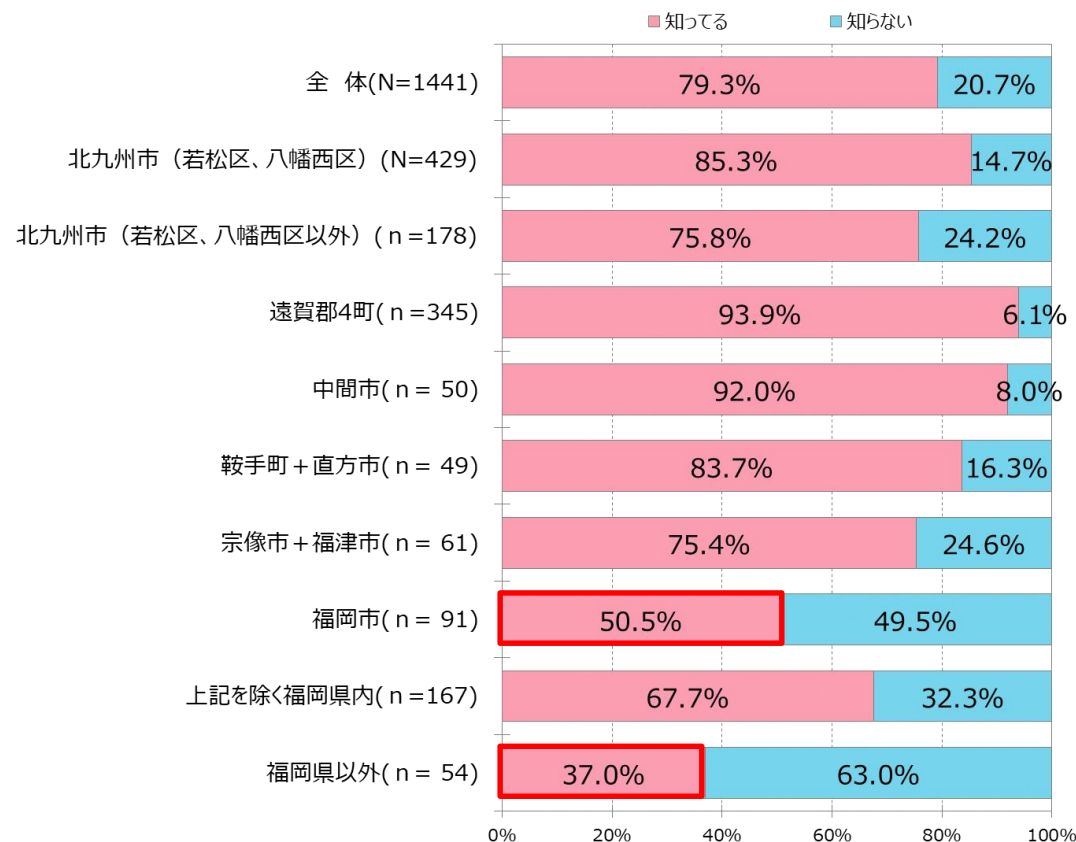


図 あしや砂像展の認知度

	人数	割合
知っている	1,142人	79.3%
知らない	299人	20.7%
合計	1,441人	100.0%

表 居住地別のあしや砂像展の認知度



※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- 芦屋町の独自性を活かしたコンテンツである「砂像」の認知度は高く、特に**近隣の方の認知度が高いことが確認できました**。
- 遠方での認知度向上が課題ではありますが、認知できれば来訪してもらえ、新たなファンとなる可能性が期待できます。

2) 観光動向調査分析結果

②観光集客機能に対する意向について（来訪意向）

- 屋内砂像展示施設への来訪意向は、「行ってみたい」が77.2%と高くなっています。
- 福岡市や県外など遠方の、あしや砂像展の認知度は低いですが、屋内砂像展示施設への来訪意向は高くなっています。

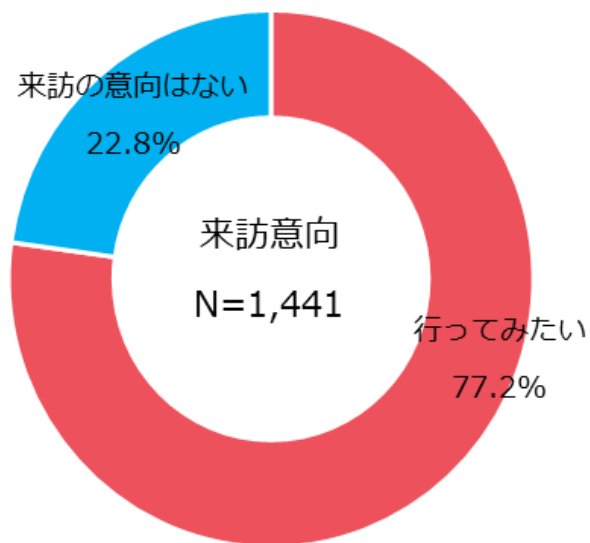
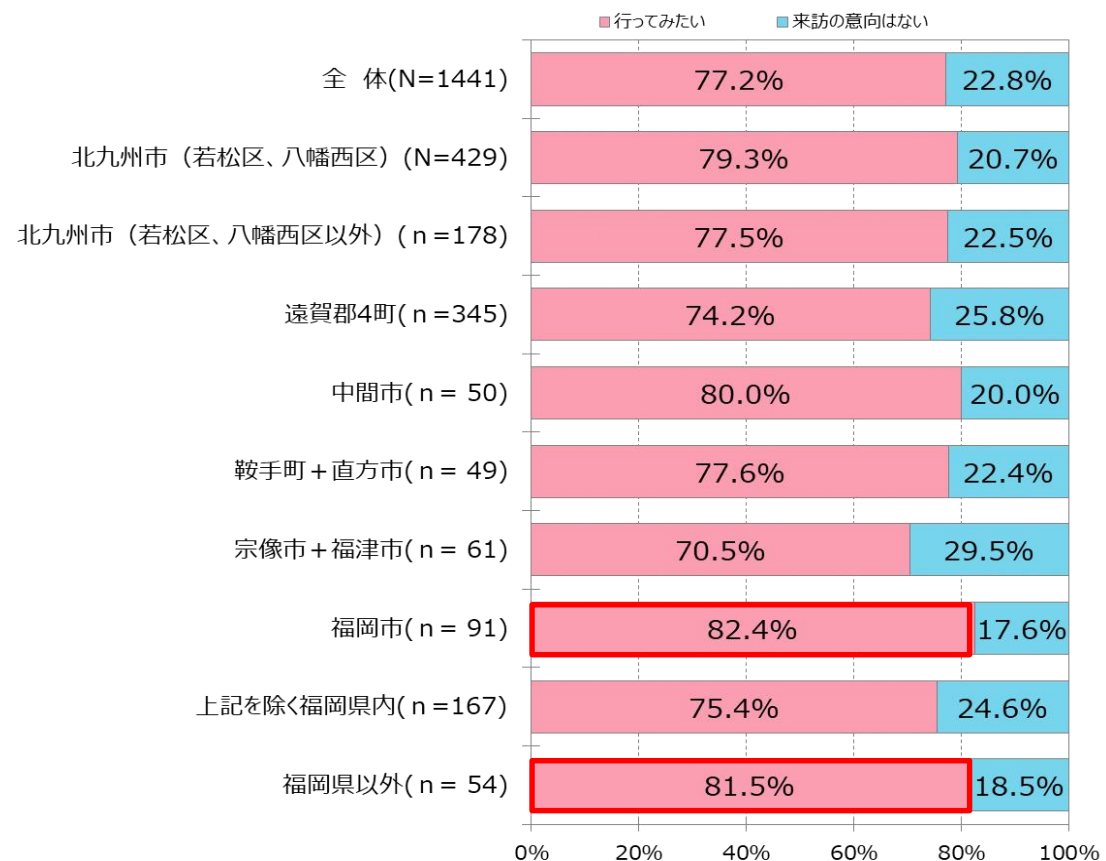


図 屋内砂像展示施設への来訪意向

	人数	割合
行ってみたい	1,112人	77.2%
来訪の意向はない	329人	22.8%
合計	1,441人	100.0%

表 居住地別の屋内砂像展示施設への来訪意向



※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- 屋内砂像展示施設への来訪意向は高く、遠方からの来訪意向が高いことも確認できました。
- 「砂像」は遠方からでも来訪の意向があるコンテンツであることが確認できました。新たなファンとなる可能性が期待できます。

2) 観光動向調査分析結果

②観光集客機能に対する意向について（来訪意向）

- 来訪意向のある方の意見としては、「**芸術性の高い砂像（迫力、美しさ、SNS映え、非日常）が見たい**」、「**照明や音響などの演出が期待できる**」、「**天候に左右されずにゆっくり見ることができる**」、「**展示期間が長くなれば見に行くことができる**」が多くなっています。

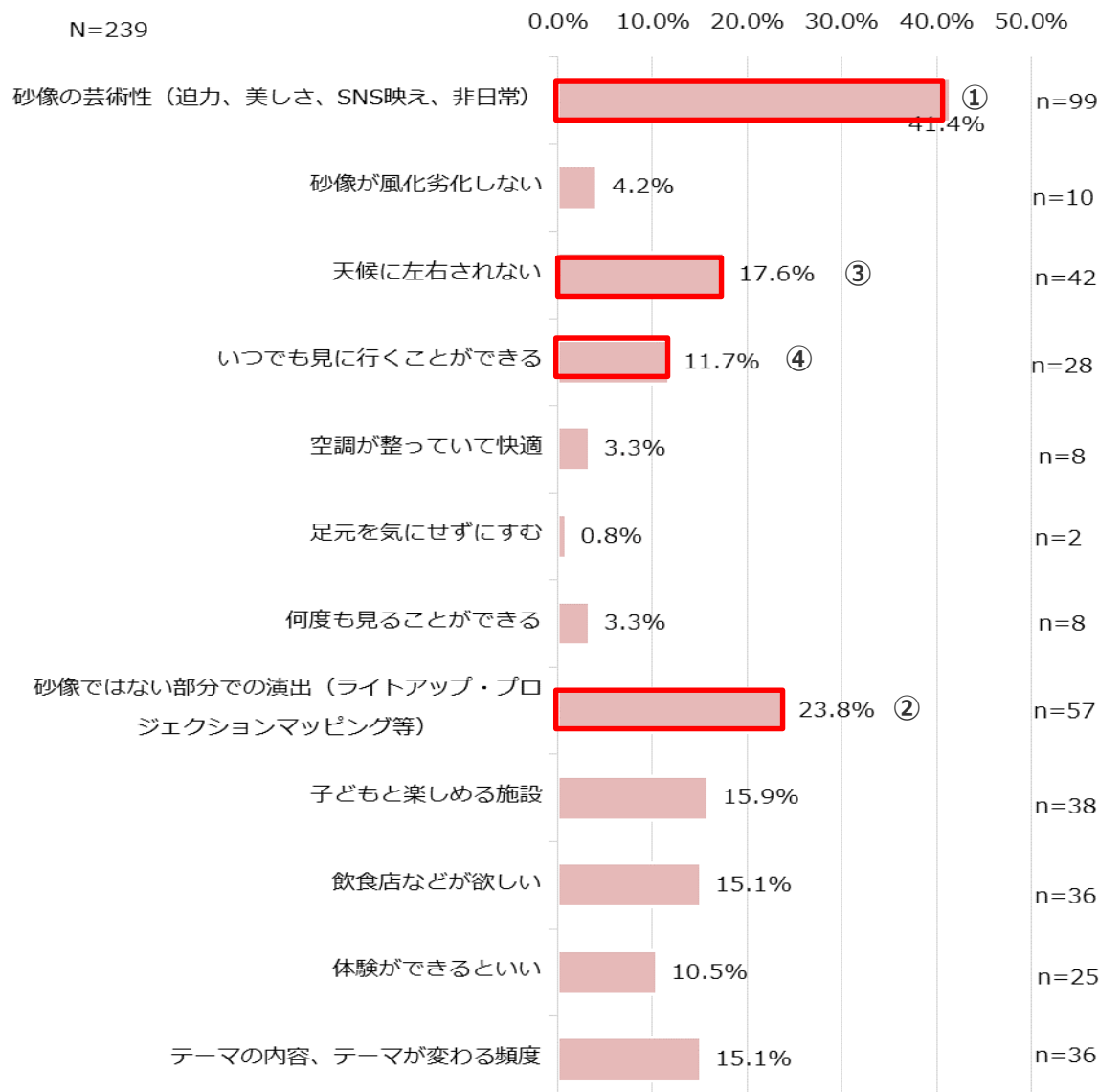


図 屋内砂像展示施設への来訪理由（期待すること等の意見）

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

2) 観光動向調査分析結果

③ サイクル機能に対する意向について

● サイクリストの利用実態とサイクル機能に対するニーズについて、次のとおり把握することができました。

※詳細は次頁以降に記載しますが、根拠となる数値等は速報値であり、変更になる場合があります。

表 サイクリストの利用実態とニーズ

サイクリストの 利用実態	居住地	・アンケートに回答したサイクリストの居住地は、「北九州地方（若松区、八幡西区）」が19.2%と最も多く、「福岡市」と続く。サイクリングロード近隣の市町からの利用が多い。
	自転車の 持参方法	・来訪者の自転車持参方法は、「自宅から乗ってきた」が66.5%、「自家用車に積んできた」が29.7%となっている。 自家用車に積んできた人のうち25.4%は芦屋海浜公園を駐車場として利用している。
	走行距離	・走行距離は、「81km～100 km」が22.8%と最も多い。
サイクル機能 に対する ニーズ	利用意向	・サイクルステーションを整備した場合の利用意向は、「ぜひ利用したい」が81.7%と最も多い。「機会があれば利用したい」も含め、98.4%の人に利用意向がある。
	サイクル ステーションに 求める機能	・サイクルステーションに求める機能について、「飲食できる施設」が81.2%と最も多く、次いで、「自転車の安全な駐輪・保管」が64.3%、「休憩・交流スペース」が45.5%となっている。 ・「トイレ、シャワーブース、更衣室」を求める意向は45.1%あり、 特に自家用車に自転車を積んできた人からの意向が高い。

【確認できた内容】

- サイクリストは、走行距離（活動範囲）が広く、サイクルステーションを整備した場合、**遠方からの来訪が期待**できます。
- サイクルステーションに駐車場が隣接している場合、サイクリングの出発地点や終着地点として利用される可能性があるなど、より遠方からの**来訪が期待**できます。
- サイクルステーションには、「**飲食**」や「**休憩・交流スペース**」を求める意向がある。また、自家用車に自転車を積んで来る方は、**トイレやシャワー設備に対する意向が高い**。サイクリストの利用実態やサイクルステーションの利用意向も確認でき、**サイクル機能としてのポテンシャルが十分にある**ことが確認できました。

2) 観光動向調査分析結果

③ サイクル機能に対する意向について（居住地）

- アンケート調査に回答したサイクリストの居住地は、「北九州市（若松区、八幡西区）」が19.2%（47人）と最も多く、次点で、「福岡市」の17.1%（42人）と続きます。
- サイクリングロードの近隣の市町村からの利用が多くなっています。

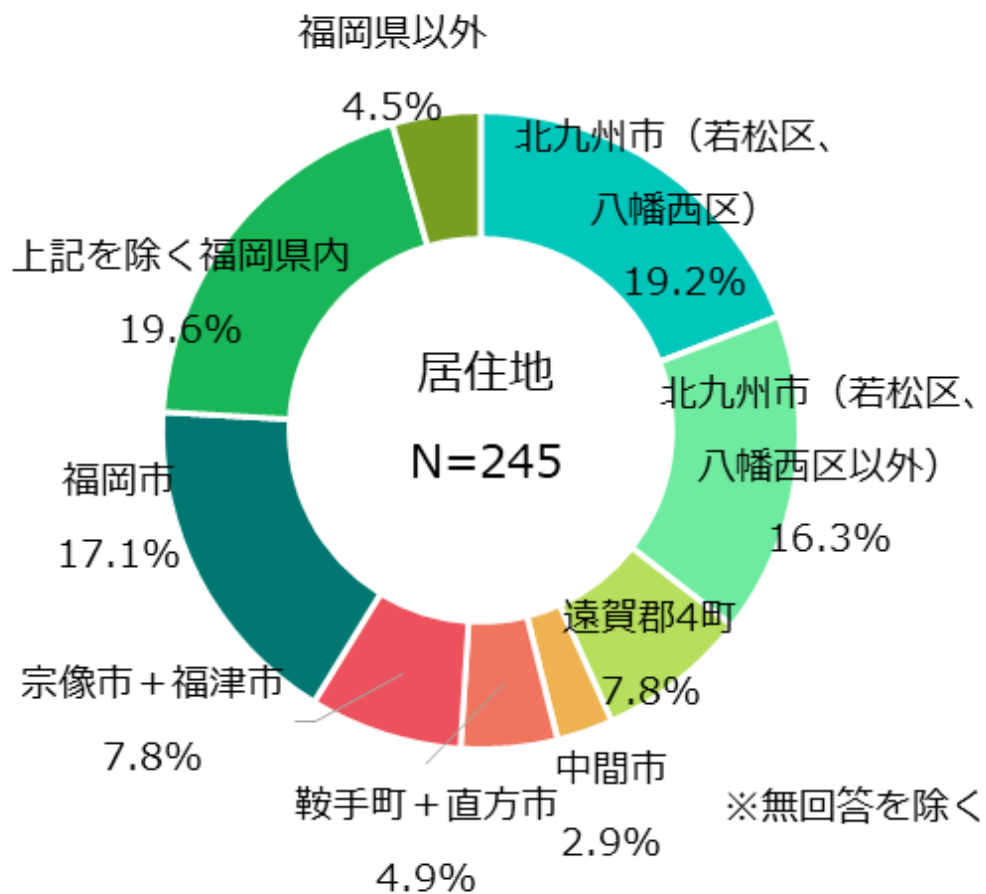


図 サイクリストの居住地

表 サイクリストの居住地

	人数	割合
北九州市（若松区、八幡西区）	47人	19.2%
北九州市（若松区、八幡西区以外）	40人	16.3%
遠賀郡4町	19人	7.8%
中間市	7人	2.9%
鞍手町+直方市	12人	4.9%
宗像市+福津市	19人	7.8%
福岡市	42人	17.1%
上記を除く福岡県内	48人	19.6%
福岡県以外	11人	4.5%
合計	245人	

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

2) 観光動向調査分析結果

③ サイクル機能に対する意向について（自転車の持参方法）

- 来訪者の自転車持参方法は、「自宅から乗ってきた」が66.5%で最も多く、次いで「自家用車に積んできた」が29.7%となっています。
- 「自家用車に積んできた」人の駐車場所は、海浜公園、宗像市、直方市、岡垣町などサイクリングロード沿線の駐車場を利用しています。

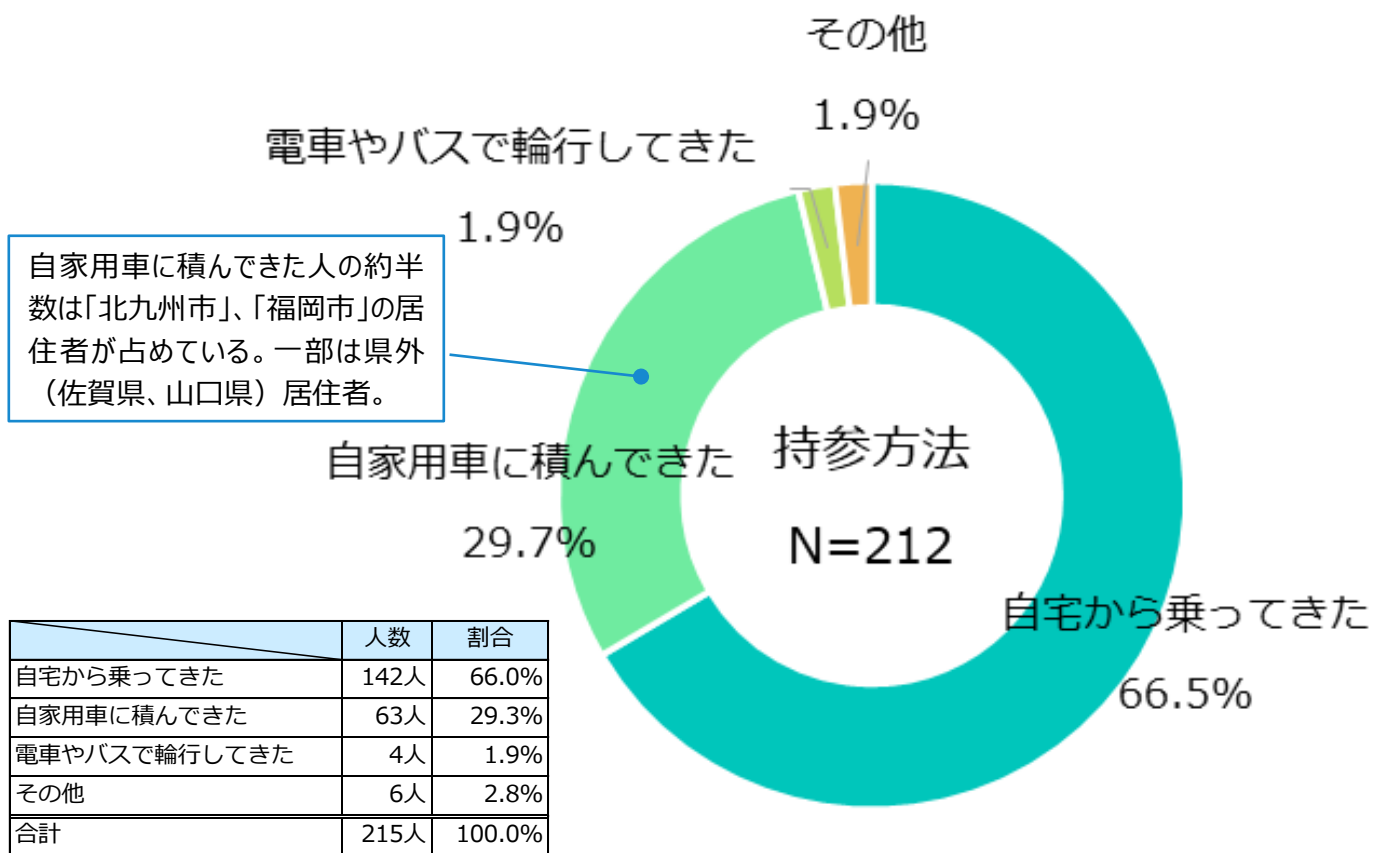
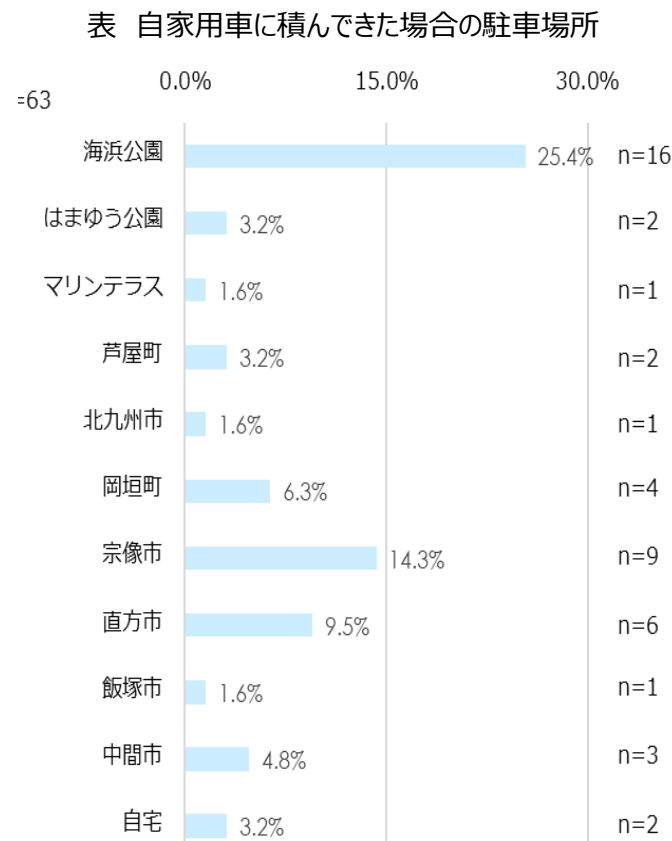


図 自転車の持参方法



※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- サイクルステーションに駐車場が隣接している場合には、サイクリングの出発地点や終着地点として利用される可能性があるなど、**より遠方からの来訪が期待**できます。

2) 観光動向調査分析結果

③ サイクル機能に対する意向について（走行距離）

- サイクリストの走行距離は、「81km～100km」が22.8%で最も多く、次いで「41km～60km」が21.8%となっています。
- 走行距離は、ばらつきがあり、サイクリストの居住地や目的に合わせて走行していることが確認できました。

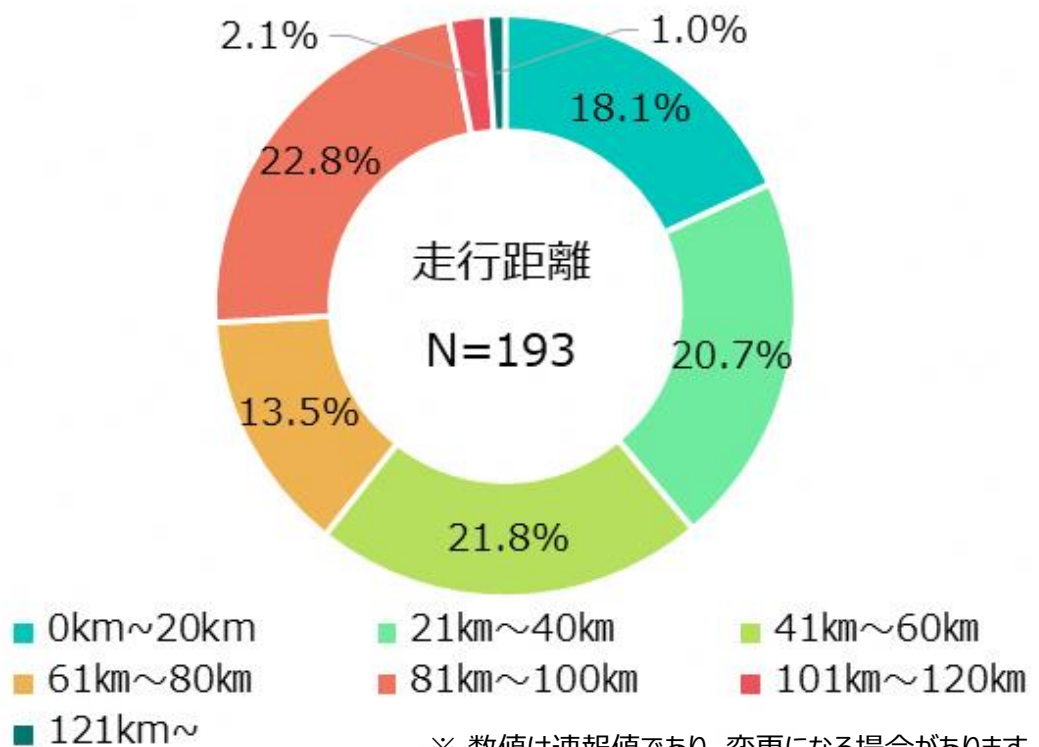


図 走行距離

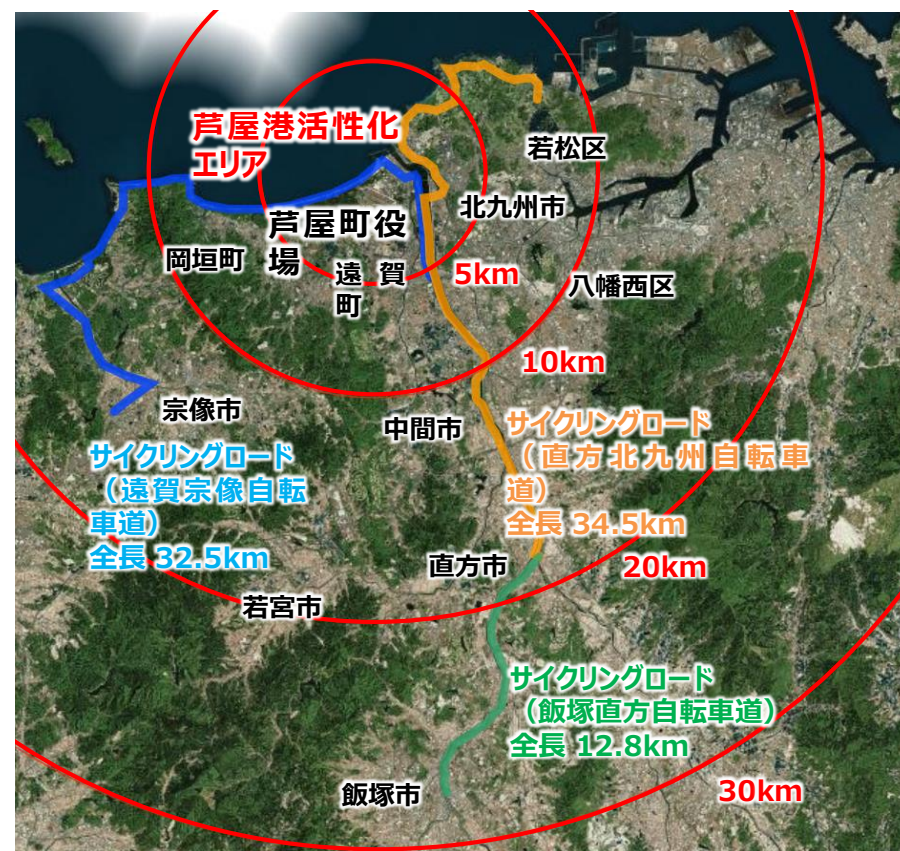


図 芦屋港活性化エリアを中心とした走行距離の目安

2) 観光動向調査分析結果

③ サイクル機能に対する意向について（利用意向）

- 「ぜひ利用してみたい」が81.7%であり、「機会があれば利用したい」も含め、**98.4%の人が利用意向がある。**

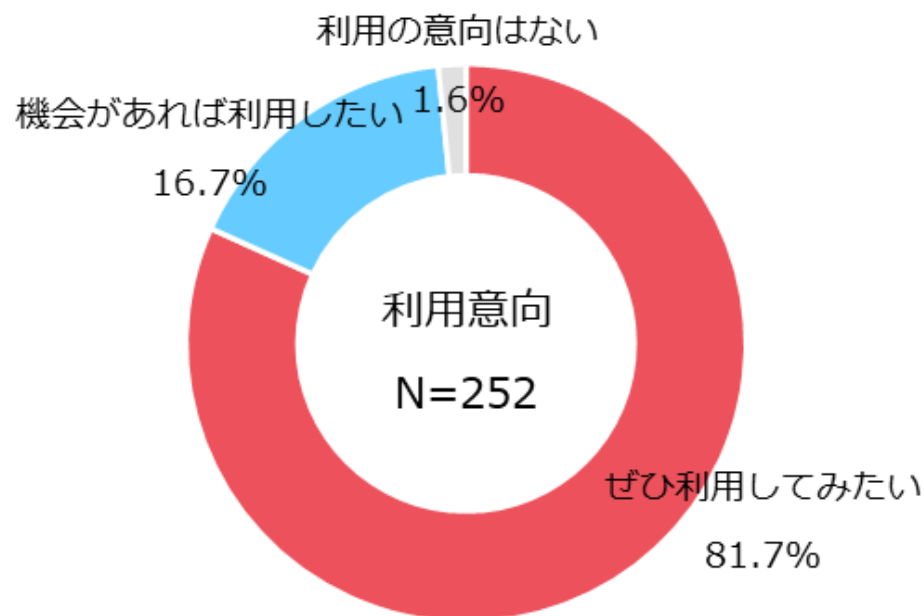


図 サイクルステーションの利用意向

表 サイクルステーションの利用意向

	人数	割合
ぜひ利用してみたい	206人	81.7%
機会があれば利用したい	42人	16.7%
利用の意向はない	4人	1.6%
合計	252人	100.0%

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。

【調査を踏まえた考察及び観光動向の課題】

- サイクルステーションへの**来訪意向は高い**ことが確認できました。
- サイクリストの来訪実態やサイクルステーションへのニーズから、芦屋港活性化エリアにサイクル機能を導入するのに十分なポテンシャルがあることが確認できました。

2) 観光動向調査分析結果

③ サイクル機能に対する意向について（求める機能）

- 「飲食できる施設」が81.2%で最も多く、次いで、「自転車の安全な駐輪・保管」が64.3%、「休憩・交流スペース」が45.5%、「自転車のメンテナンスサービス」が45.5%となっています。
- サイクリングの走行距離が長い人は、「メンテナンスサービス」や「携行食の販売」といった機能を求める傾向があり、自宅から自転車に乗ってきた人は「最新自転車やパーツ等の展示イベント」「Wi-Fi」、自家用車で自転車を運んできた人は「トイレ・シャワールーム・更衣室の利用」「携行食の販売」「手荷物預かり」のニーズがあります。

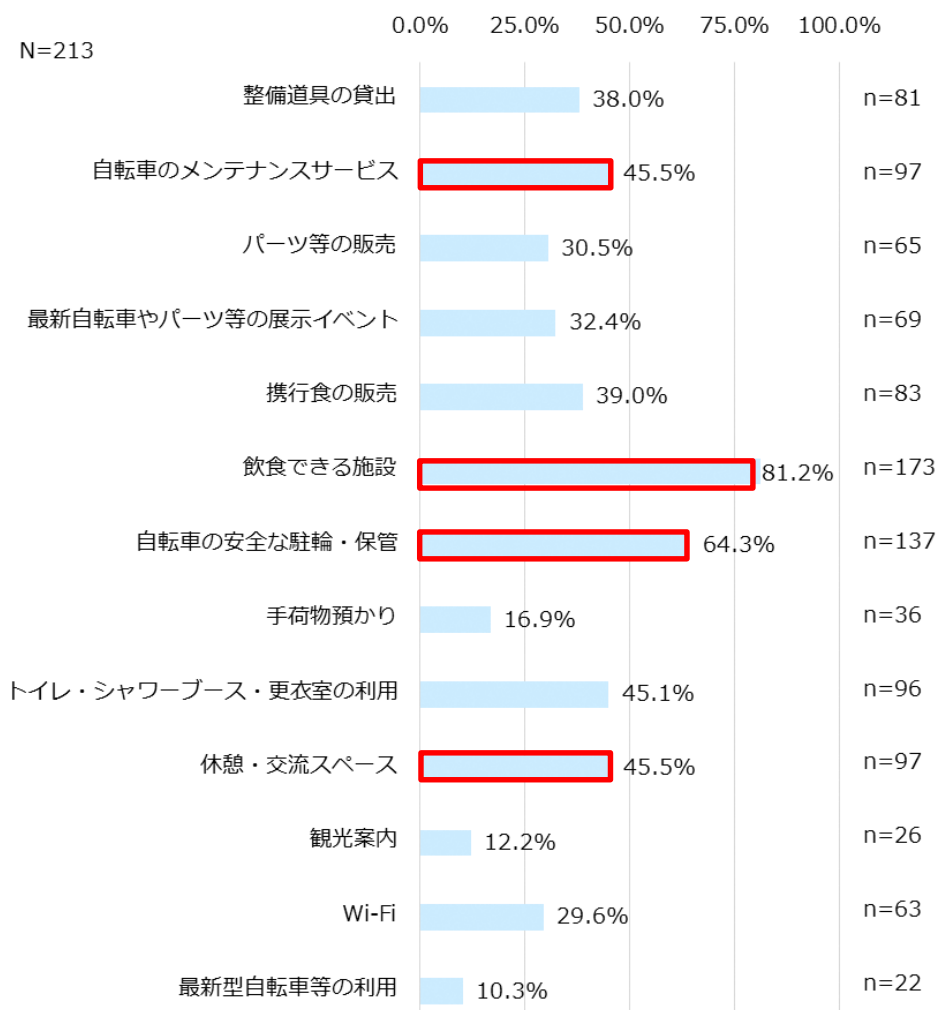


図 サイクルステーションに求める機能

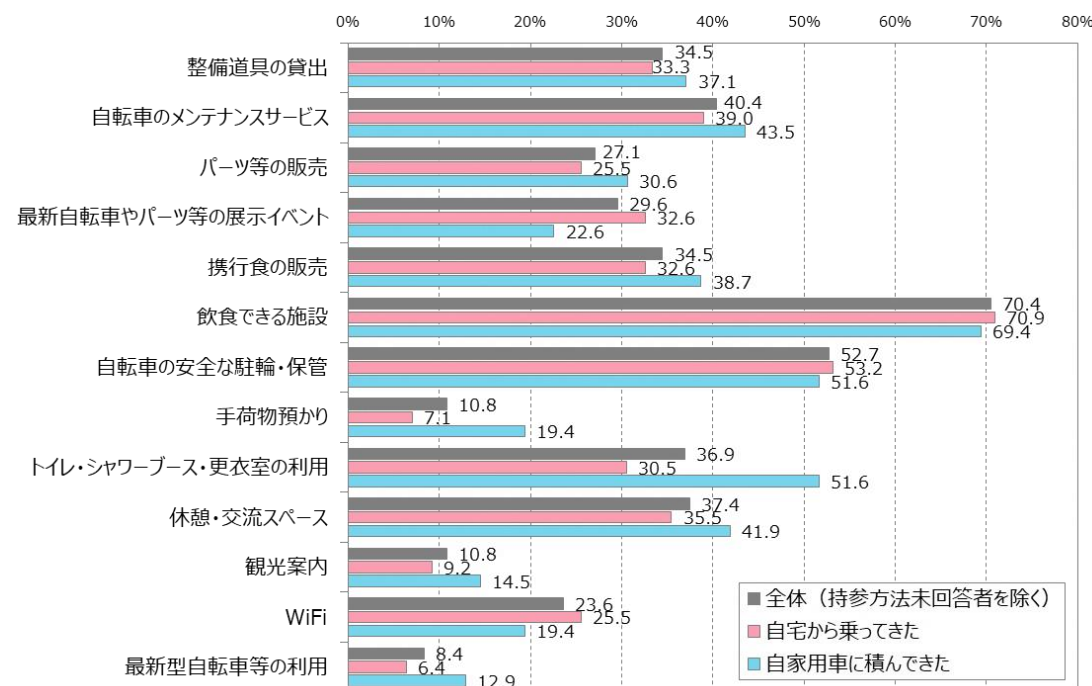


図 持参方法別サイクルステーションに求める機能

※ 数値は速報値であり、変更になる場合があります。